

## 食料・農林水産分野におけるGX加速化研究会（第3回）

# 日本食農連携機構 JFACO の取り組みについて

令和7年12月5日



一般社団法人  
日本食農連携機構

名称	一般社団法人日本食農連携機構 Japan Food & Agriculture Cooperative Organization
住所	東京都千代田有楽町1丁目7番1号 有楽町電気ビル北館7階 707区
設立	2009年
代表者	増田 陸奥夫
会員数	172 会員（2025年9月30日現在）
事業概要	全国の大型農業法人、JA、食品メーカー、外食・中食、流通等、食料システムを構成する食と農に関わるセクターの団体・企業等が会員  会員限定セミナーの「アグリビジネス研究会」の運営、会員相互の連携によるビジネス創造を支援する「食農ビジネスコーディネート機能」などを会員に提供

私たちの経営理念

食と農のバリューチェーンが生み出す付加価値で、  
農業を成長産業に

私たち日本食農連携機構《J F A C O》の経営理念は、  
良識と調和のある食の実現に向けて、「食と農のバリューネットワーク  
の構築」と「次代に繋がる農業経営の持続的発展」に貢献すること

農業を、時代・社会と調和して成長を続ける産業に、  
そのために、農業が食品関連産業等と連携して産業としての価値を高め  
る支援を通じて理念の実現を目指しています

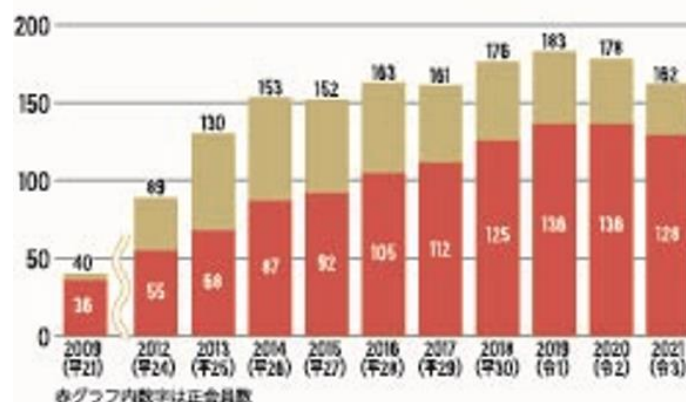
# 1-3 日本食農連携機構《JFACO》の概要



## 機構理念

良識と調和のある食の実現に向けて、  
「食と農のバリューネットワークの構築」と  
「次代に繋がる農業経営の持続的発展」に貢献する。

## 年度末会員数



## これまでの取り組み

年度	主な出来事
2007年 (平19)	9月 機構の前身となる「農業経営サポート研究会」(会長:増田陸奥夫)発足
2009年 (平21)	9月 (一社)日本食農連携機構設立
2010年 (平22)	7月 「くまもと農業経営塾」の企画・運営受託(～2016年)
	9月 熊本支部設立(2011年9月九州支部へ拡大)
2012年 (平24)	6月 「みやぎ農業経営塾」の企画・運営受託(～2015年)
2013年 (平25)	10月 東北支部設立
2015年 (平27)	4月 北海道中小企業家同友会とかち支部農業経営部会との連携協定締結 熊本県フードバレーアグリビジネスセンター・シニアアドバイザーへの増田理事長就任
2018年 (平30)	4月 中部支部設立
2019年 (令1)	7月 「2030年基本問題研究会」を立ち上げ(11月に「食料・農業・農村基本計画」へ政策提言)
	11月 設立10周年記念祝賀会開催
2020年 (令2)	7月 コロナ禍を踏まえアグリwebセミナー開始
2021年 (令3)	7月 事業子会社(株)日本食農連携ビジネス設立
2023年 (令5)	3月 事務所移転(有楽町電気ビル)

## 日本食農連携機構の仕組み

経営感覚に富んだ「食」と「農」を結びつけ、新たなビジネスを生み出します。



## 2 株式会社日本食農連携ビジネスの概要





# 3 全国に広がる《JFACO》のプラットフォーム

会員数：172  
(令和7年9月時点)



## 近畿・中四国

と京都◎  
杜若園芸◎  
京葱SAMURAI  
村田農園  
早和果樹園  
食縁  
クワアグリ  
松永牧場  
小豆島ヘルシーランド  
Japan Ginger  
アイ・エス・フーズ徳島

滋谷食品

農業総合研究所  
明石屋

## 中部・北陸 (中部支部)

恵那川上屋◎  
和仁農園  
サンフレッシュ海津  
浅井農園◎  
大橋園芸  
トップバー  
なかひら農場  
アグベル  
マルナアグリエイション  
鈴生  
金沢大地  
六星  
三共農園  
かわに

JAひだ  
JA上伊那  
JA信州うえだ  
JA長野信連  
JAとびあ浜松  
JA静岡信連

一正蒲鉾  
春華堂

パローホールディングス◎  
新潟クボタ

和田機械  
インチオホールディングス  
栄新薬  
中日本高速道路  
プランニングエメ  
カタコトデザイン

恵那市  
下條村  
飯島町  
高森町  
輪島市

## 北海道

(十勝農経部会連携)

十勝しむら牧場◎  
前田農産食品◎  
大野ファーム  
中野牧場  
苫東ファーム  
尾藤農産

セコマ  
山本忠信商店  
三菱商事北海道支社

雪印種苗  
ホープ  
ファームステッド

北海道経済連合会

## 九州 (九州支部)

セブンフーズ◎  
果実堂  
宮川洋蘭  
サブライジングファーマーズ  
久川養鶏場  
さかうえ◎  
鹿児島堀口製茶  
新福青果  
加藤えのき  
いちごボタジェ  
ベジイト  
シトラスプラス

JF東町  
JA鹿児島信連  
JA佐賀信連

南日本酪農協同

西部ガスホールディングス  
正興電機製作所

九州経済連合会  
九州経済調査協会  
福岡貿易会

## 東北 (東北支部)

川口納豆◎  
舞台ファーム  
アグリオンハート  
農園貞太郎

仙台北産  
ジェイエイトんどうフーズ

ヒューレックス

矢吹町  
仙台商工会議所

## 関東 (本部)

和郷園◎  
イオンアグリ創造  
ハヤシ  
野菜くらぶ◎  
みずほ  
れんこん三兄弟  
ヤマザキライス  
日本農業

ニチレイ◎  
エスピー食品◎  
カゴメアグリフレッシュ  
山崎製パン  
協同乳業  
サントリーフーズ

ヤオコー  
オイシックス・ラ・大地  
千田みずほ  
大治  
定松  
マルタ  
丸紅食料  
資生堂パーラー  
グリーンハウス  
吉池  
国際空輸

エア・ウォーター◎  
東光電気工事  
アグリコネクト◎  
でいたらば  
食農夢創  
国際開発センター  
クミアイ化学  
朝日アグリ  
セラク  
電通  
ケエ  
ハレックス  
ABC Cooking Studio  
ビザライト

三井不動産  
JA三井リース  
共栄火災海上保険  
協同住宅ローン  
事業性評価研究所  
NEXYZ  
Life Lab  
アグリメディア  
伊藤忠エネクス  
TBSスパークル  
共同通信社  
日本農業新聞  
家の光協会  
SBプレイヤーズ

青山社中  
東京海上日動火災保険  
アグリビジネス投資育成  
群馬県農政部  
オーストラリア大使館  
日本GAP協会  
GAP総合研究所  
全国消費者団体連絡会  
日本スーパーマーケット協会  
農林中金総合研究所  
流通経済研究所  
JICA  
日本能率協会

## ◆凡例

黒：農業法人  
緑：JAグループ  
橙：食品製造  
紫：流通・卸・外食  
青：関連業界  
赤：行政・関係機関  
※◎は理事会員

# 4 日本食農連携機構《JFACO》 地域別事業実績



## 中部・北陸 (中部支部)

- <研究会>
- アグリビジネス研究会長野(H30)、金沢(R6)開催
- 中部支部セミナー(R1)

### <4 JA協議会>

- 県域を跨いだJA間連携(H29-)
- (JAひだ、とびあ浜松、上伊那、信州うえだ)

### <岐阜県>

- 岐阜県ローカルフードプロジェクト(R3-4)
- 岐阜県食農連携販路開拓事業(R1-2)

### <岐阜県恵那市>

- トレーニー受入(R1,2,4,6)
- 恵那ふうど認証、えなブランド認定制度(R3-)
- 恵那食農連携農業サポート塾(R2-)
- 恵那市農業経営セミナー(R3,5-6)

### <石川県輪島市>

- トレーニー受入(R5)
- 美しい農村再生支援事業(H27)
- 能登における一次産業活性化と地域再生事業(H24-26)
- 能登のFood風土 玉村豊男の里山里海旅(H26)

### <長野県飯島町>

- トレーニー受入(R3)
- 農泊ワーケーション事業(R3-4)

### <事業支援>

- 岐阜県内JAの営農販売事業DX化サポート(R5)
- JAひだ経済事業改革コンサルティング(H27-30)
- 北斗市農業支援コンソーシアム・シニアアドバイザー(R27-28)

## 北海道 (とち農経部会連携)

### <研究会>

- アグリビジネス研究会十勝開催(H29)
- 北海道食農セミナー(R1)

### <中小企業家同友会とち支部農業経営部会>

- 「食・農に関する連携協定書」締結(H27)
- 記念講演会、例会等への農水省等講師派遣(H29-)

### <とち地域活性化支援機構>

- フードバレーとち人材育成事業サポート(H28-)
- 首都圏等市場調査視察研修コーディネート(R5-)

## 東北 (東北支部)

### <研究会>

- アグリビジネス研究会仙台開催(R5)
- 東北食農塾(R1-R4)
- 稲作研究会(R3-R4)
- 東北支部セミナー(H25-28)
- GAPセミナー(H29)

### <宮城県>

- みやぎ農業経営塾(H24-26)

### <福島県矢吹町>

- トレーニー受入(R5)
- シン・魁！農業塾(R6-)

## 近畿・中四国

### <事業支援>

- 広島県内JAの営農販売事業DX化(R4-5)

## 九州(九州支部)

### <研究会>

- アグリビジネス研究会熊本開催(R4)
- 福岡貿易会講演会共催(R5)
- 九州食農セミナー(R1)
- 九州支部セミナー(H22-30)

### <熊本県>

- 県南フードバレー・シニアアドバイザー(理事長 H27-)
- くまもと農業経営塾(H22-28)
- 食農塾in熊本(H29-30)

## 関東 (本部)

### <研究会>

- アグリビジネス研究会(年4回)
- 農業フロンティア研究会(R6-)
- 女性農業経営者の会(R5-)
- 先端アグリwebセミナー(R2-3,5-)
- 2030年基本問題研究会(R1)
- 食農塾(現地視察)(R1)
- 若手農業者グループ・バトルサミット(H28-30)
- 輸出実務研究会(H26)
- 農業法人等の事業再生手法等にかかる研究会(H25)
- 福田達夫先生を囲む勉強会(H30-)

### <海外ネットワーク>

- オーストラリア大使館  
メルボルン視察(R4)、豪州関係団体との相互交流
- アメリカ西海岸視察(H30)

### <受託事業>

- 物流生産性向上推進事業(R6)
- 農業界と経済界の連携による生産性向上モデル農業確立実証事業(H26-R2)
- 健康な食生活を支える地域・産業づくり推進事業(H28)
- 日本の食魅力再発見・利用促進事業のうち消費拡大全国展開事業(H27)
- 業務用米生産・流通拡大に向けたプロジェクト(H26)
- 農匠ナビプロジェクト(H22-26)

### <事業会社等>

- 日本食農連携ビジネス設立(R3)
- みらい米市場(株)への出資(R5)

### <情報発信>

- 「トップランナー紹介」「食×農の現場から」発信

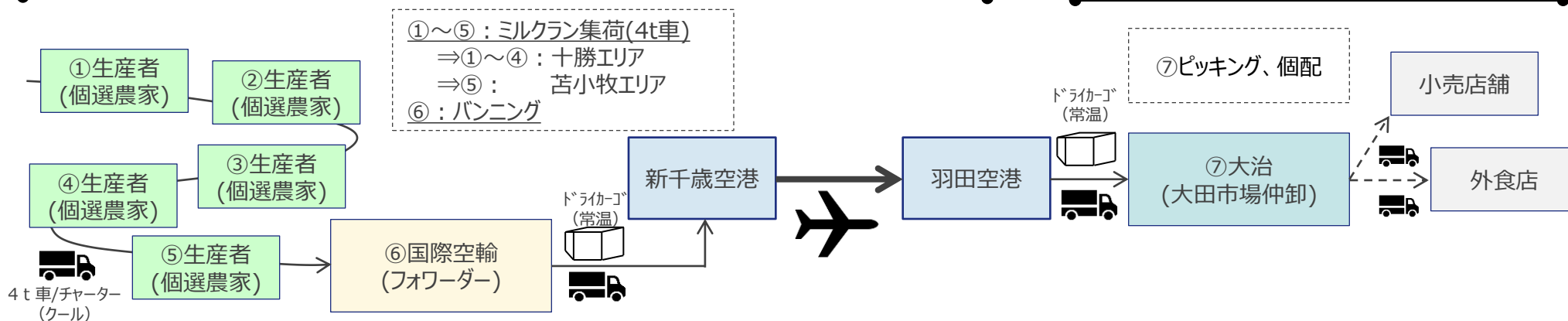
## 取組概要

実施 期間/回数	令和6年9月～11月 計3回の実証を実施、令和7年度よりビジネス実装
主な参画事業者	生産者：なまら十勝野、小笠原農園、折笠農場、ベジナ中村農場、とかち井上農場、夢想農園、苫東ファーム 物流事業者：国際空輸（国内フォアダー～道内ファーストワンマイル輸送、航空輸送、羽田空港ピックアップ） 大治（大田市場仲卸～羽田空港でピッキング、首都圏実需者店舗に個配） 実需者：紀ノ國屋、明治屋、外食チェーン他
品目	とうもろこし、じゃがいも、長芋、ごぼう、越冬じゃがいも、ミニトマト、さつま芋、山わさび、長ねぎ、リーキ、パプリカ、ブロッコリー、かぼちゃ、ごぼう、レタス、夏いちご（すずあかね）、秋いちご（よつぼし）等 複数品目を輸送
実証の内容	新規航空輸送ネットワークを活用した ①農産物の付加価値向上、②実需者評価の獲得 ③モーダルシフト の実証「コスト」「品質」「時間」「作業性」の4点から検証。

## 十勝・苫小牧地域 実証輸送ルート

N日（集荷～航空輸送）

N+1日（ラストワンマイル）





- ①北海道の大自然で育った農畜産物を収穫/製造当日に空輸便で羽田空港へ輸送。  
**最高の鮮度**で首都圏へ。
- ②北海道**十勝地域**の**優良な生産者限定**の品々を厳選してお届け。
- ③利用者最多の羽田⇄新千歳の**日中の空きスペース**を活用した廉価な航空便。
- ④ファーストワンマイルからラストワンマイルまで**最適化された輸送**ルートを活用。

### 【取扱例】



#### 【小笠原農園のとうもろこし】

品種：ミルキースイーツ  
栽培：無農薬（有機JAS取得）

期間：8月上旬-9月上旬



#### 【井上農場の熟成メークイーン】

品種：メークイーン  
栽培：慣行栽培

期間：周年



#### 【なまら十勝野の野菜】

品種：アスパラガス、トマト、ミニトマト、スイートコーン、人参、じゃがいも、玉ねぎ、ごぼう、他  
栽培：慣行栽培、特別栽培



#### 【十勝しんむら牧場】

商品：生乳、ミルクジャム、クロードットクリーム、他  
飼養：土壌改良されたミネラルバランスの整った牧草地で放牧

### ✓ 農業フロンティア研究会

- フードバリューチェーン全体の価値向上による農業の成長産業化促進を目指す研究会
- 生産セクターと食品関連セクターとの有機的な連携によりその実現をはかるために、各界のトップランナーである機構の会員が、各セクタープレーヤーに求められる将来的な機能と役割を議論

### ✓ 女性農業経営者の会

- 全国各地域で活躍する女性経営者の経営の高度化と成長の実現を支援する取り組み
- あらたな経営者ネットワークの構築と、成功を収めた他産業の経営者等を招聘したディスカッションを通じその実現を支援

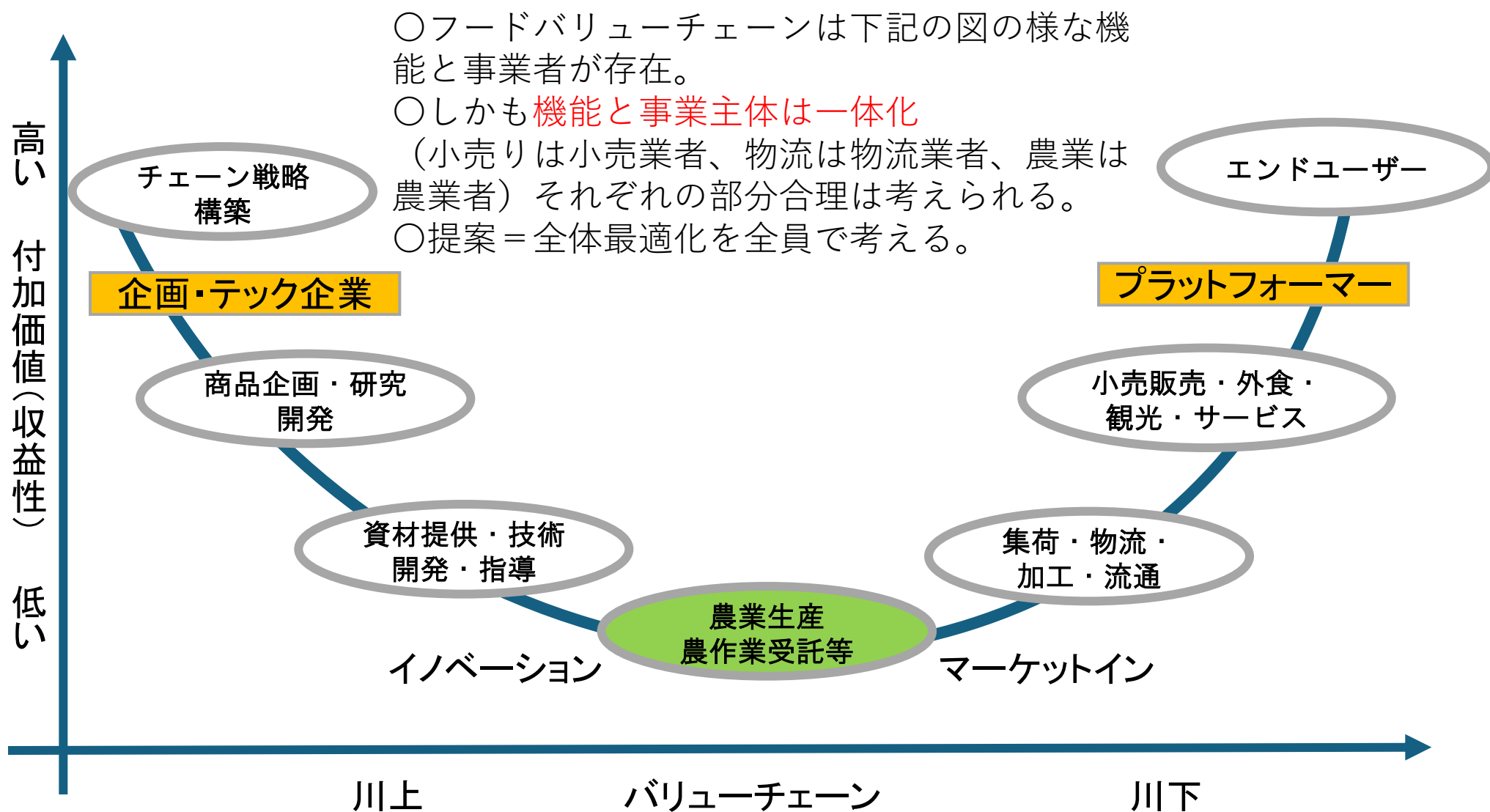
### ✓ 次代を担う農業経営研究会

- 本格化する農業構造の大転換期において、企業を含めたこれからの日本農業の中核となる次代の農業経営者が、農業経営の持つ価値をフードバリューチェーン全体のなかで最適な水準に高め、農業を地域の中核産業の一つに高度化していくことを支援する研究会

### ✓ 在日大使館との連携

- オーストラリア … AFPA等現地の関係団体との相互訪問を通じた日豪間のビジネス協業を目指す
- この他、アイルランド、ハンガリー大使館等との意見交換を継続

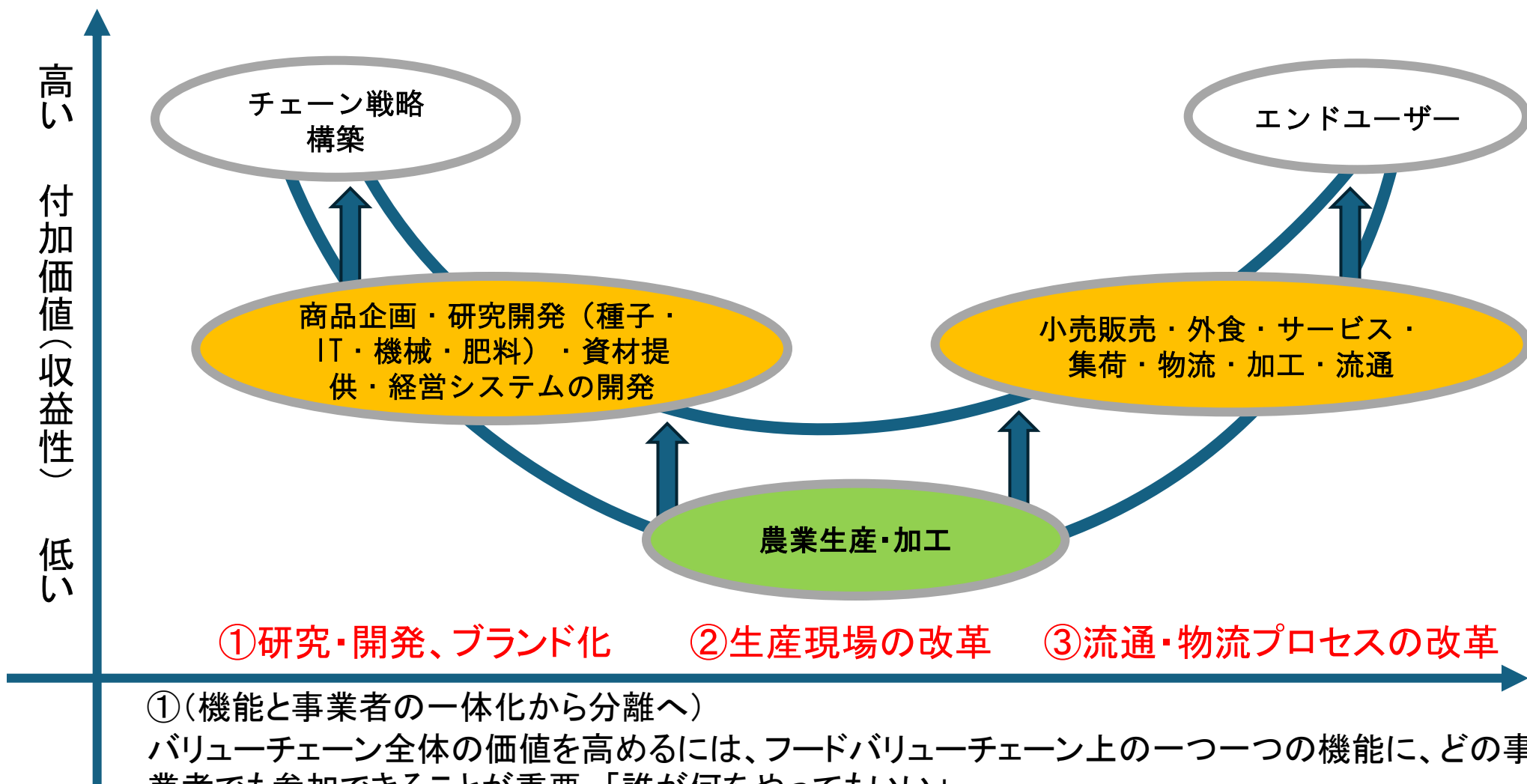
## 7-1 フードバリューチェーンの全体最適化を業界全体で考える



○全員でチェーンの全体最適を考えるととっても難しい。

○全員で考えるには、機能と主体の分離が必要。⇒誰が何をやってもいい状態を作る。

## 7-2 誰でもどの機能にでも参加できるバリューチェーン



①（機能と事業者の一体化から分離へ）

バリューチェーン全体の価値を高めるには、フードバリューチェーン上の一つ一つの機能に、どの事業者でも参加できることが重要。「誰が何をやってもいい」。

（流通業者が物流へ、外食が集荷事業へ、機械メーカーが農産物販売へ、小売業者が農業へ、加工業者が企画開発へ等々）

②その際、農業者がその変化に対応できるかが重要。他業種連携、合従連衡に対応しながら、新たな農業のビジネスモデルを作る。⇒（従来の農業のイメージを超えた、投資効率の高い農業に転換）。

# 7-3 ニーズに応え成長するフードチェーン農業



1戸当 販売額	3 百万	5 百万	1 千万	3 千万	5 千万	1 億	3 億	5 億	10 億	
農業経営の内容	○意欲ある人材による小規模農業 ○サラリーマン農業（全農家の80%稲作農家が大半を占める）		○家族での農業の限界 ◎受動的にフードチェーンに参加 ○パートの導入 ○六次産業化 ○販売先確保 ○生産技術の修得	○法人化の推進 ○所得率から粗利益率へ ○雇用・労務管理 ○経営力量の向上（数字重視） ○規模と資金の調整 ○機動的資金調達	◎フードチェーン農業① ○他の農家の仲間化・組織化 ○規模拡大	◎フードチェーン農業② ○加工の導入等多事業・多角化 ○社長がいなくても自走する組織	○のれん、投資、承継、M&A、等			
	A作目作り		B事業づくり		ビジネスとして成立する農業)			C価値づくり		
	農家数 比率	小規模農家 9割弱(88.1%)		中規模農家 1割弱(9.9%)		大規模農家 0.2割(1.9%)				
	販売額 比率	2割(20.8%)		3割弱(29.6%)		5割(49.6%)				